

事務事業名	市内陶芸施設維持管理事業	□ 実施計画事業	所属部局	教育委員会	単位番号	12351									
			所属課室	生涯学習課	課長名	新津 岳									
基本政策	V 個性と文化を育む都市づくり	□ 実施計画事業	所属担当	生涯学習担当	担当者名	笛本芳美									
				会計	名称	款	項	目	細目	細目					
政策	22 生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	01	一般	1	0	0	4	0	6	0	4	0	0	5
			□ 国の制度による義務的事業	□ 施設等維持管理事業											
施策	35 生涯学習システムの推進		□ 県の制度による義務的事業	□ 補助金交付事業											
			□ 市の制度による義務的事業	□ その他の事業											
事業期間	□ 単年度のみ □ 期間限定複数年度 ( 年度 ) ~ ( 年度 )	法令根拠	□ 義務化されている協議会等の負担金												
事業の内容 事務事業の概要	事業期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 八田陶芸施設・甲西陶芸施設の電気料支払いと施設・設備の修繕等の維持管理事業。 本事務事業の実務は、“文化協会事務局”を含め(財)桃源文化振興協会へ移管する。	事業費の主な内訳 ( 22年度 )	項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)									
			光熱水費	221	修繕料	315									
					計	536									

## 1 現状把握(DO)

## (1) 事務事業の目的と指標

① 活動	22年度活動実績	電気料支払いと施設・設備の修繕。
	23年度活動予定	電気料支払いと施設・設備の修繕。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		陶芸施設。
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)		八田地区、甲西地区の陶芸施設が常時使用できる状態を維持する。
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)		八田地区、甲西地区の陶芸施設等が支障なく開催できる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	名称	単位
ア: 施設維持管理数		個数
イ:		
ウ:		
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	名称	単位
ア: 施設数		個数
イ:		
ウ:		
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	名称	単位
ア: 施設・設備の修繕数		回
イ:		
ウ:		
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	名称	単位
ア: 陶芸の開催割合		回
イ:		

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間トータル	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
	財源内訳	一般財源	千円	404	536	416	0	80	80
		事業費計 (A)	千円	404	536	416	0	80	80
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	6	6	3	3	3	3
		人件費計 (B)	千円	27	27	12	12	12	12
		(A)+(B)	千円	431	563	428	12	92	92
		活動指標	ア: 個数	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
			イ:						
			ウ:						
		対象指標	ア: 個数	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
			イ:						
			ウ:						
		成果指標	ア: 回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			イ:						
			ウ:						
		上位成果指標	ア: 回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			イ:						

## (3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	陶芸施設は、平成15年の合併以前から管理してきた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べどう変化しているか?また、今後の予測は?	八田施設は平成17年度に当初の場所から諸般の事情により現在地のすぐ近くへ移設。 その間にすぐ八田のゲートボール場自体は体育協会へ指定管理となった。今後電気炉の払い下げを行う。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	施設利用者より要望のあった大規模修繕を行い、利用しやすくなった。また、電気炉を八田陶芸部に委譲することは、部員の了解を得ている。

## (4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	「取り組みしている」⇒【内容】】 「取り組みしていない」⇒【理由】】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	施設利用者に対し施設の適切な利用を求め、経費節減に努めた。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	両施設に関わる運営経費に差がある(電気料)ことを利用者に対して周知し、今後の施設のあり方について検討するきっかけを作った。

事務事業名	市内陶芸施設維持管理事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

## 2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 市民の自主的な文化・生涯学習活動を推進しており、“文化づくりの推進”に結びつく。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 市が整備し、小規模で多目的に利用ができない施設の維持管理なので、市で行うのが妥当である。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 基本的に希望者は誰でも施設を利用できるため、妥当である。
有効性評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 「陶芸」という限定された施設の維持管理事業であり、施設の適正管理以上の成果はない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	<input type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) <input type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 市内陶芸施設の整理統合を計画的に検討することで、一元的に指定管理にするなどで対応できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 市内で気軽に文化活動をする機会が減る。 <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 市内で気軽に文化活動をする機会が減る。
効率性評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 利用者の理解と協力が必要だが、2箇所ある施設を整理統合できれば、大幅に事業費が削減できる可能性がある。また、八田電気炉については、今年度中に払い下げを予定しているので維持管理費(電気料・修繕料)の削減につながる。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げず人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 職員の関与は最低限であり、これ以上の削減余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 施設運営経費に偏りがあり、一部利用者に対しある程度の負担を求める必要があると思われる。

## 3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性において類似事業として全ての陶芸事業を「豊文化教室」に統合する事で解消できるが、運営上の問題でなかなか実行できない。ただし将来的にこの事業での陶芸窯が利用できなくなつた時点では検討対象となる(その前に豊文化教室の陶芸窯が壊れるかもしれないが)。効率性では八田陶芸についてはH23年度までの電気基本料金支払となり、H24年度からは甲西陶芸の電灯分だけとなるため大幅な経費削減となる。公平性については陶芸事業が実施されている地域性もあり、将来的な市内一本化の段階まで継続して見直し対象とならざるを得ない。
②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)…複数選択可	(3) 改革・改善による方向性
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果)	<input type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性⑤の結果)
<input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果)	<input type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果)
<input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果)	<input type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)
(2) 改革改善案について	コス水準 削減維持増加 向上 成績 維持 水準 低下
①陶芸事業の市内一本化 ② ③	※ 廃止・休止の場合は記入不要
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果
①甲西地区での陶芸事業の見直し ② ③	成果優先度評価結果 (12) コスト削減優先度評価結果 (6)